第23回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

特選　J-FLEC理事長賞

通帳と母の背中から学んだ、私の経済感覚

佐賀県・佐賀県立佐賀北高等学校　3年　大木　未来

私は昔から、どちらかと言えば「使うよりも貯める」タイプだった。小学生の頃、周囲がすぐに買い物に走る中で、私はもらったお年玉やお祝い金を鍵つきの引き出しにしまい込む「たんす貯金」を楽しんでいた。自分で稼ぐ手段のない子どもにとって、もらったお金は一度きりのチャンスのように感じていたのだと思う。限られた収入の中でどう使うかを考えることは、私にとって初めての経済的な選択だった。

高校生になってもその習慣は続いていた。私の学校ではアルバイトが禁止されており、収入源はお年玉や少額のお小遣いだけ。収入がない中でのやりくりは、自分なりに考えながら支出を抑え、必要なときのために備えることの繰り返しだった。私は「お金の使い道を選ぶ力」こそ、働けない高校生にとって最も大切な経済感覚のひとつだと感じていた。

その価値観がより深まったのは、父が突然病気で働けなくなったことがきっかけだった。収入は大きく減り、家計を一手に支えることになったのは、介護職として働く母だった。朝も夜も働き詰めで、わずかな休息時間にようやく眠る母の姿を見て、私はこれまでとは違う形で「お金の重み」に気づかされた。お金は、誰かの体と時間、そして心を削って得るものなのだと。

その頃、私は母から一冊の通帳を渡された。「未来の口座、これから何かあったときのために預けておくから自分で管理してみて」と言われ、私はこれまでの「たんす貯金」をすべて入金してみた。印字された数字は思っていたよりも多く、どこか誇らしかった。でもその金額が、「安心」ではなく「責任」に見えたのは初めてだった。

それ以来、私はスマートフォンの家計簿アプリでお金の出入りを管理するようになった。コンビニでの100円、母から受け取った1,000円、そのすべてを記録し、「使いすぎていないだろうか」「この出費は本当に必要だったか」と振り返ることが日課になった。自分がどれほど計画的に、そして無駄なくお金を使

©J-FLEC2025

えているかを“見える化”することで、限られた収入の中でも安心感が生まれた。

この“見える化”の作業は、実は金融リテラシーの基本でもある。金融リテラシーとは、お金に関する知識や判断力のこと[注)]。お金を貯める、使う、守る、増やすといった基本的な力は、日々の生活の中で身につけていく必要がある。私の場合は、家庭の変化や母の働きぶりという現実から、その力を自然と身につける機会を得たように思う。だが、実際には多くの同世代がこうした経験をするわけではない。日本ではまだ、学校で金融や経済のリアルを学ぶ機会が限られている。たとえば、「給料からどれだけ税金が引かれるのか」、「奨学金は借金であること」など、知っておきたい基本的な知識も、授業では深く扱われないまま卒業していく生徒も少なくない。私は、自分の家庭環境がきっかけとなって、こうした知識や視点を早くから得られたことをある意味では幸運だったと思っている。

この夏、私は18歳になり、法律上の成人としての立場を得た。これからは、アルバイトなどを通じて自分でお金を稼ぐ経験ができるようになる。家計簿で出費を記録してきた私は、これから初めて「収入」という項目を自分の手で書き込むことになる。それが楽しみであると同時に、「お金を得ることの大変さ」を自分の体で理解する覚悟もある。さらに、成人したということは、これから税金や社会保険料を自分で支払っていく立場になるということでもある。国や自治体の制度に支えられて生きる一方で、今後は自分がその制度を支える一員となっていくのだ。そのことを意識すると、お金は「自分のため」だけでなく、「社会の中でどう流れていくか」を考える対象へと変わっていった。

私はこれから先、誰かの力になれる仕事に就きたいと思っている。その一方で、自立した生活を送り、母に少しずつ恩返しができるようにもなりたい。お金の話は、どこか現実的で冷たいものと思われがちだが、私にとってそれは「家族のぬくもり」や「生き方」と深く結びついている。通帳に記された数字やアプリに並ぶ支出の一覧は、私がどんな選択をして、どんな未来を描こうとしているのかを静かに語ってくれると思う。そして経済は、ただ遠くのニュースや数字の話ではない。私たち一人ひとりの生活そのものであり、「どう生きるか」「どう支え合うか」を映す鏡のようなものだ。お金を通して私は、大人への一歩を実感している。そしてこれからも、現実を直視しながら、自分にできる選択を重ねていきたいと思う。

©J-FLEC2025

（注）
金融経済教育推進機構（日本証券業協会「投資の時間」アーカイブ）「金融リテラシー」
URL　https://www.j-flec.go.jp/links/jikan/word/199.html
閲覧日　2025年7月31日

©J-FLEC2025